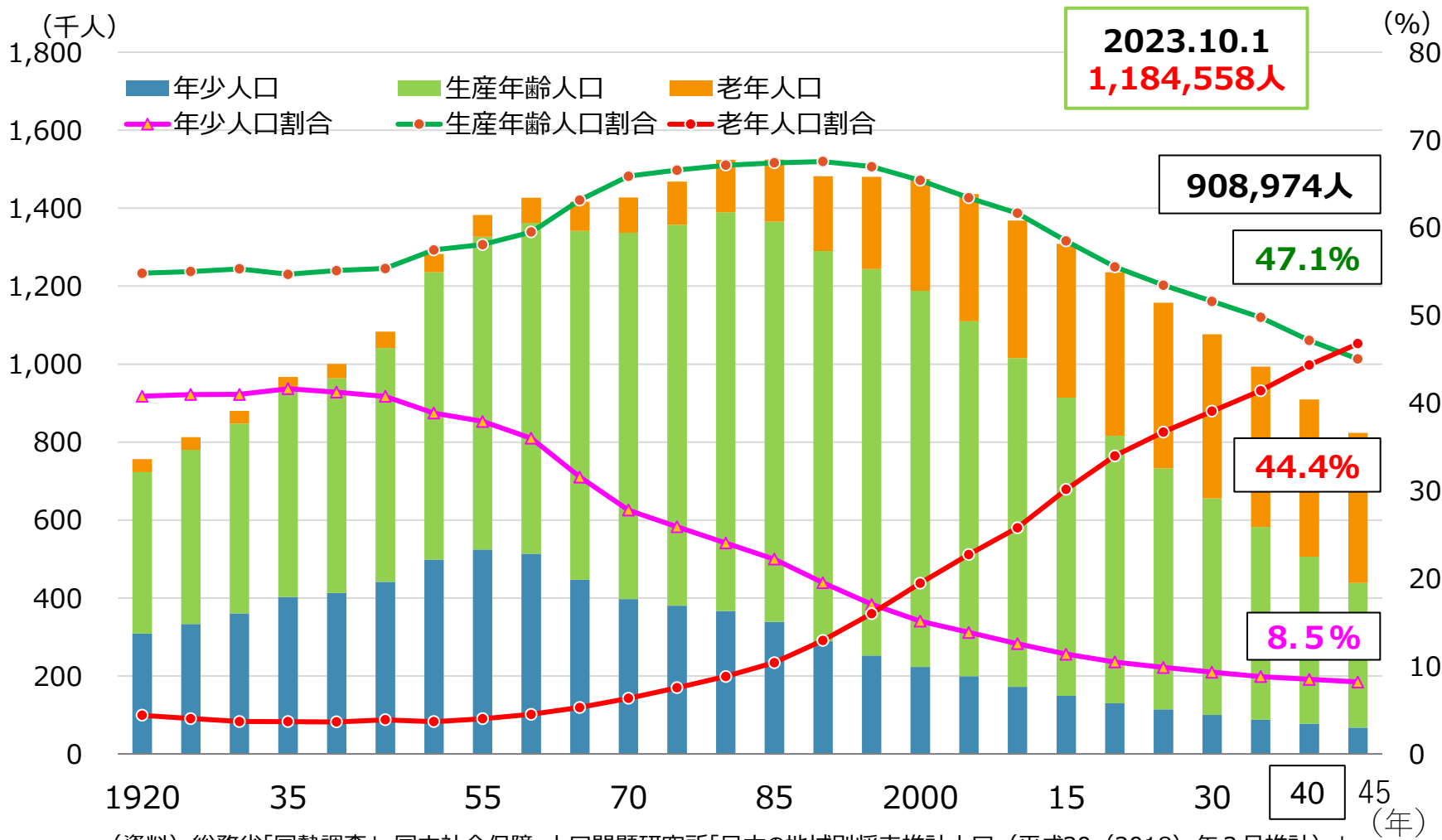


青森県における人口減少等の状況

①人口の推移

◆本県の人口は1983（昭和58）をピークに減少転じており、2040年までには100万人を下回り、約90万人になると推計。2045年には、65歳以上の人口が15～64歳の人口の割合を上回る見込み。



(資料) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年3月推計）」

②人口ピラミッドの推移

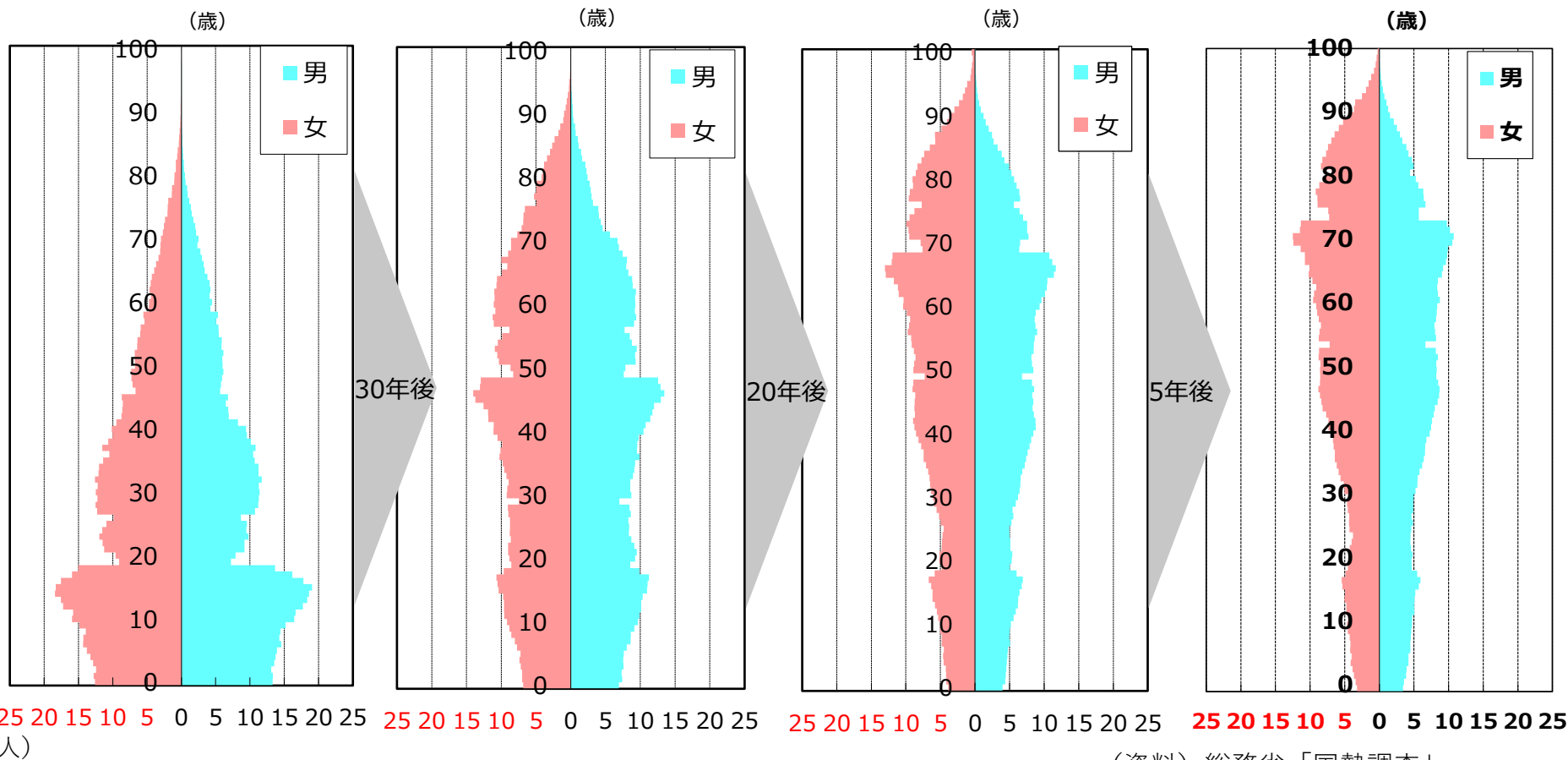
◆人口の構造は、少子化と高齢化の進行に加え、第1次ベビーブーム世代（70～74歳）の最大層が、人口ピラミッドの上方へスライド。

1965(S40)年

1995(H7)年

2015(H27)年

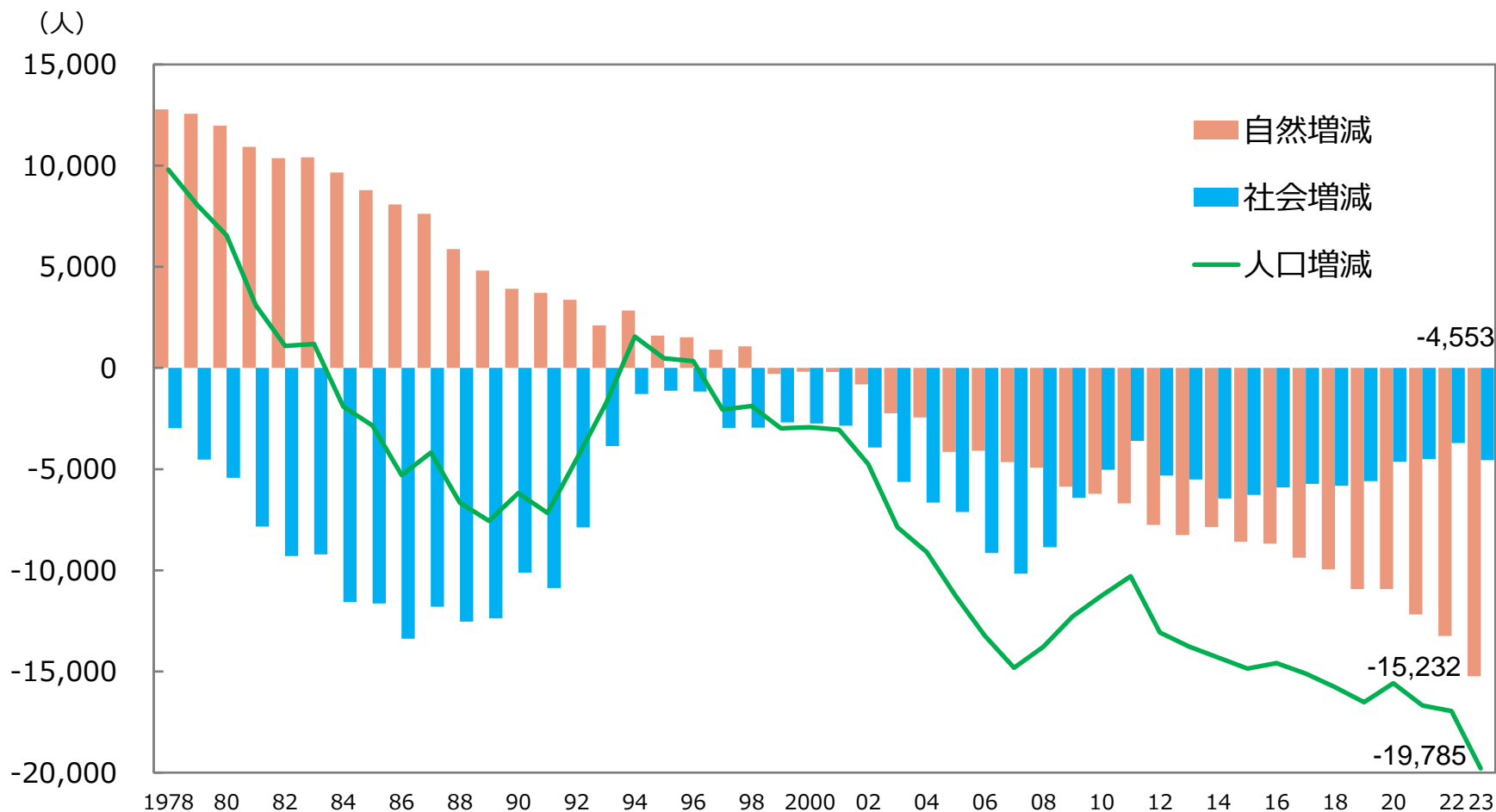
2020(R2)年



(資料) 総務省「国勢調査」

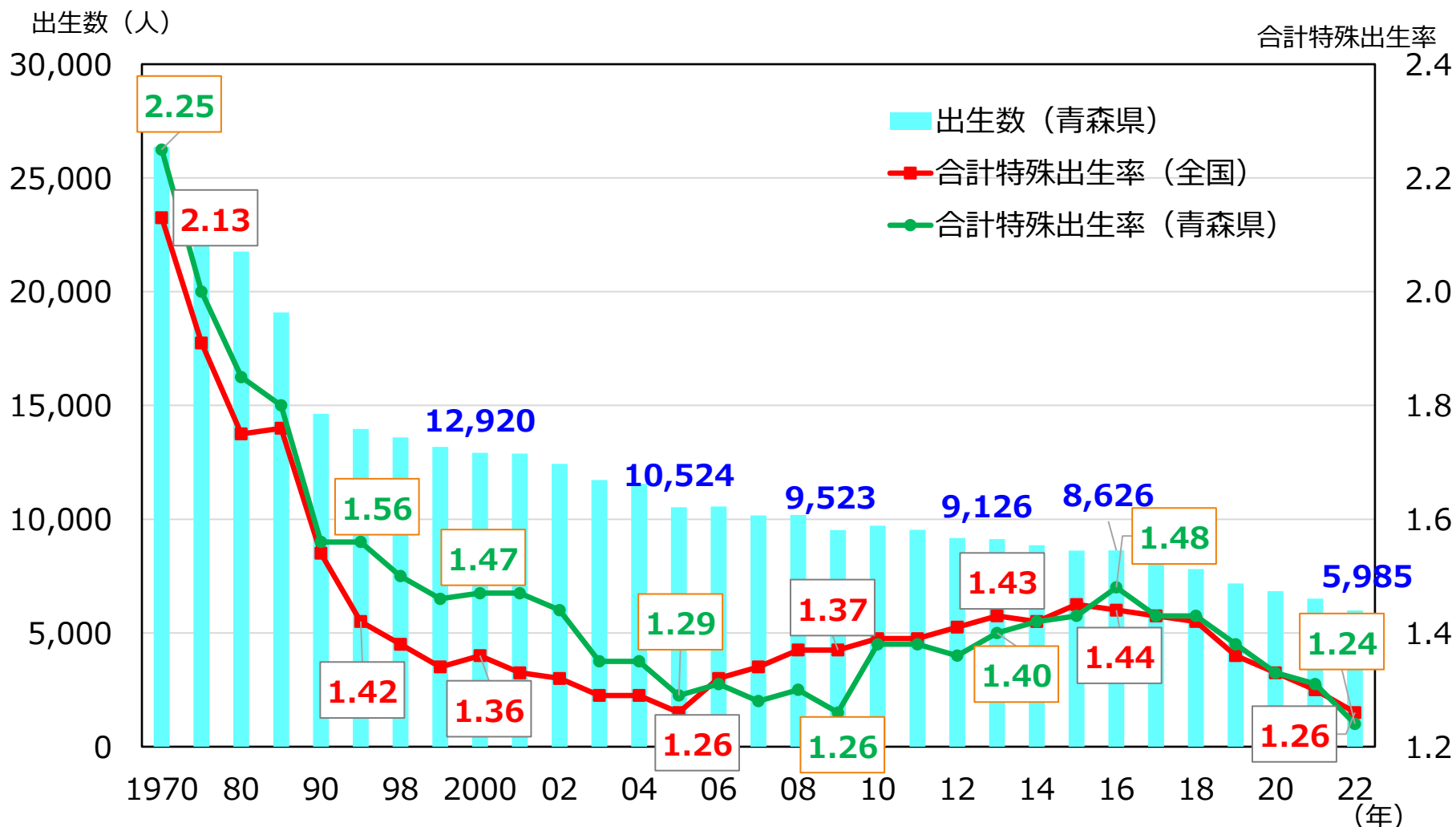
③自然増減と社会増減が総人口に与えてきた影響

◆1990年代までは社会減の影響を自然増が緩和する形になっていたが、1999年以降は自然減となり、人口減少が年々加速。近年、社会減は全体数の減少やコロナの影響で減少傾向にあったが、2023年は前年より増加。



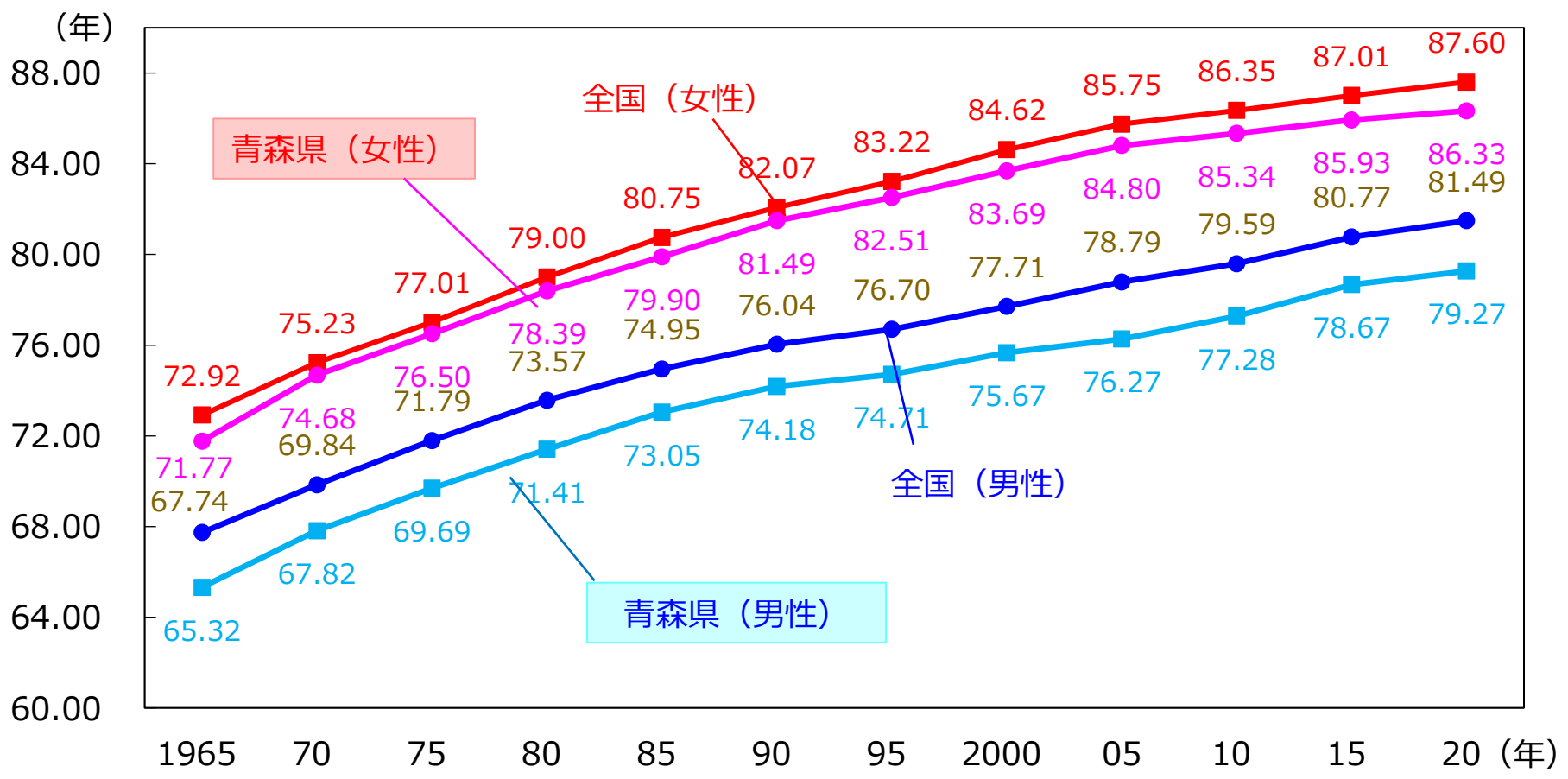
④ 出生数と合計特殊出生率の推移

◆ 15～49歳の女性人口の減少等により、出生数の減少が続き、過去最少。合計特殊出生率は低下傾向にあり過去最低。



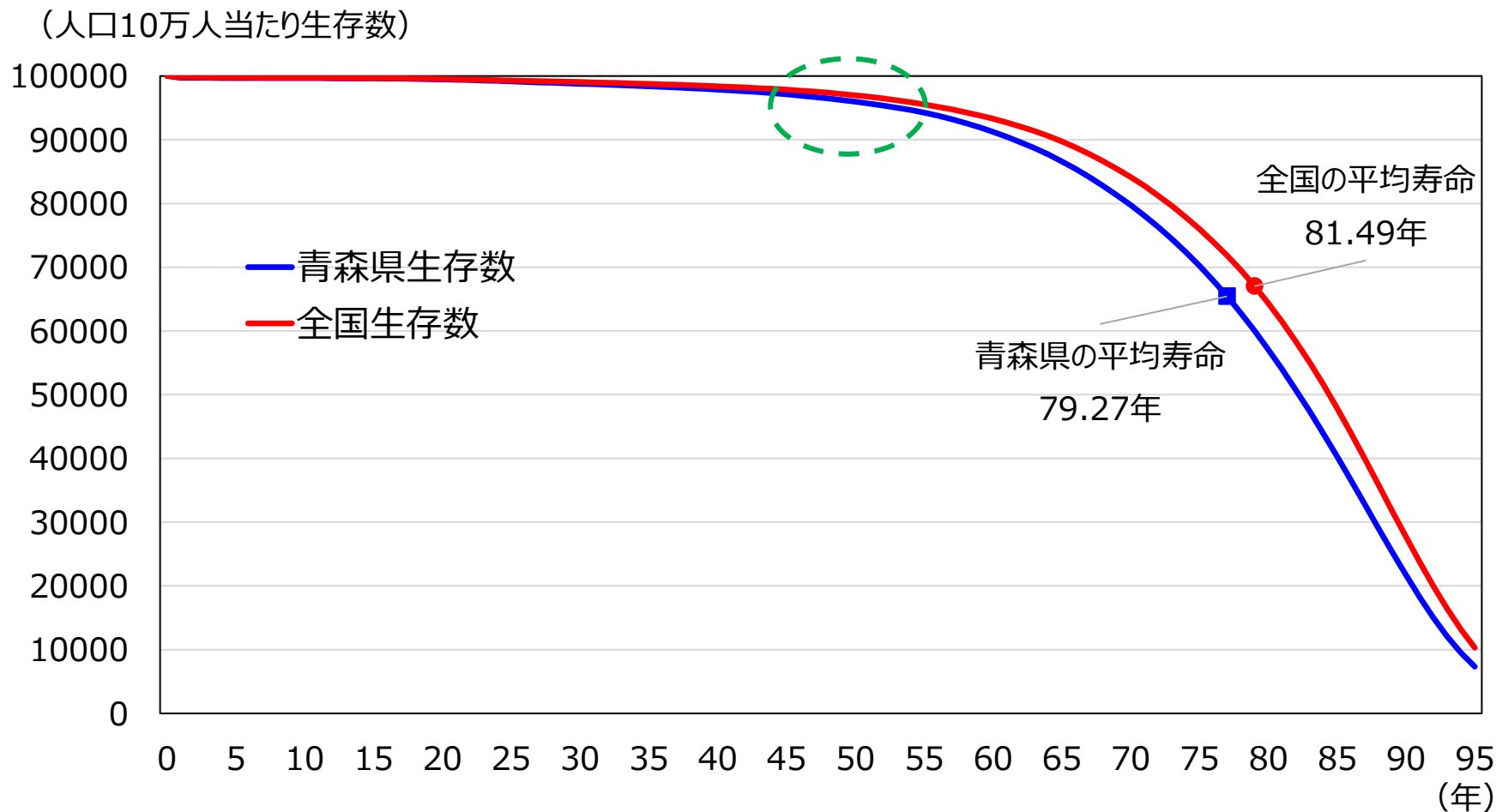
⑤ 平均寿命の推移

◆本県の平均寿命は、男性は1975年以降、女性は2000年以降、全国順位で最下位。平均寿命は延びているものの、他県も同様に延びている状況。



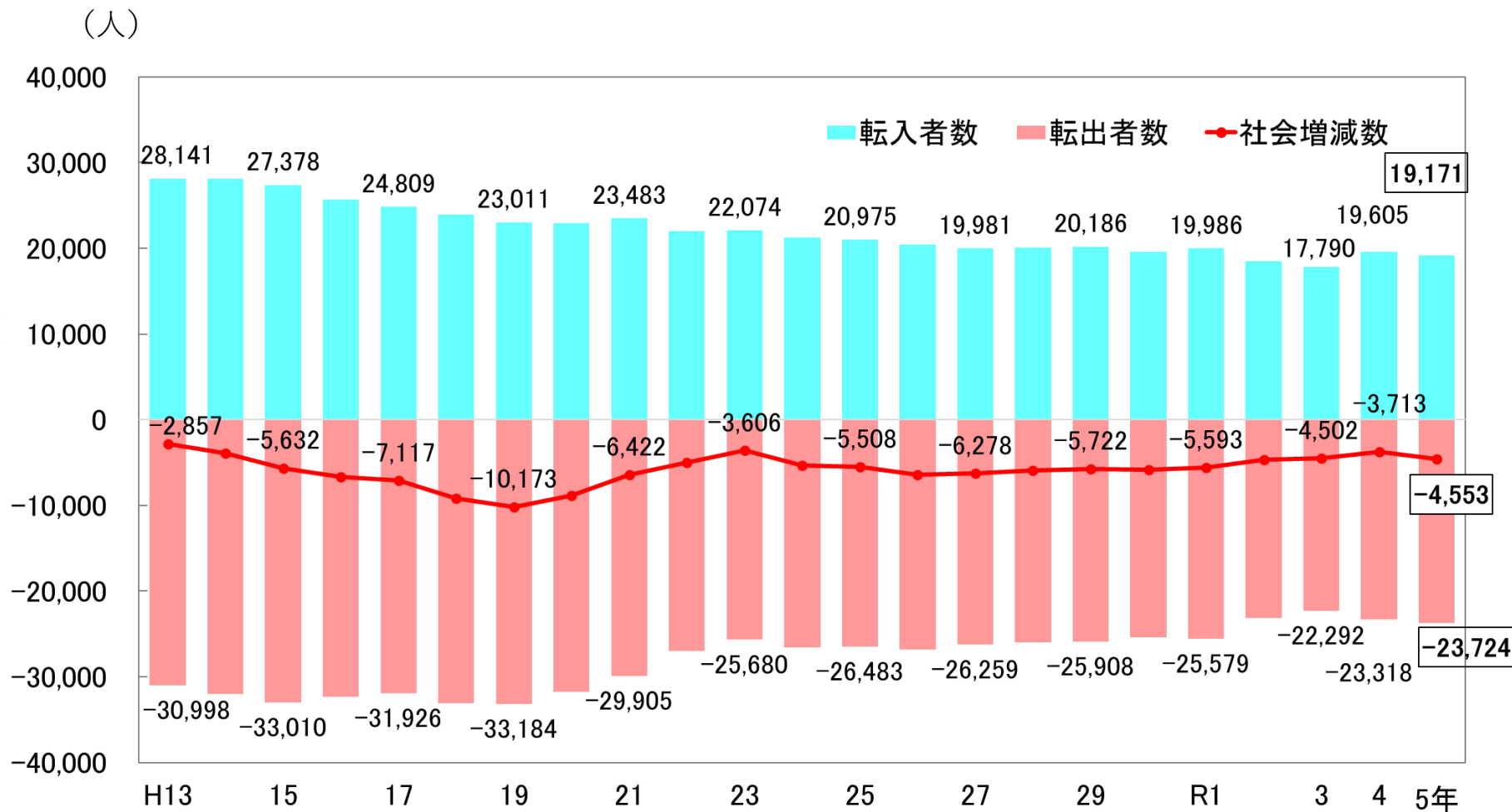
⑥ 男性の生存曲線の比較

◆ 本県と全国の男性の生存数格差は、40歳代後半から拡大。



⑦ 転入者数と転出者数の推移

◆近年は社会減が減少傾向にあったが、令和5年は前年より増加。転入者数が減少した一方で、転出者が増加。

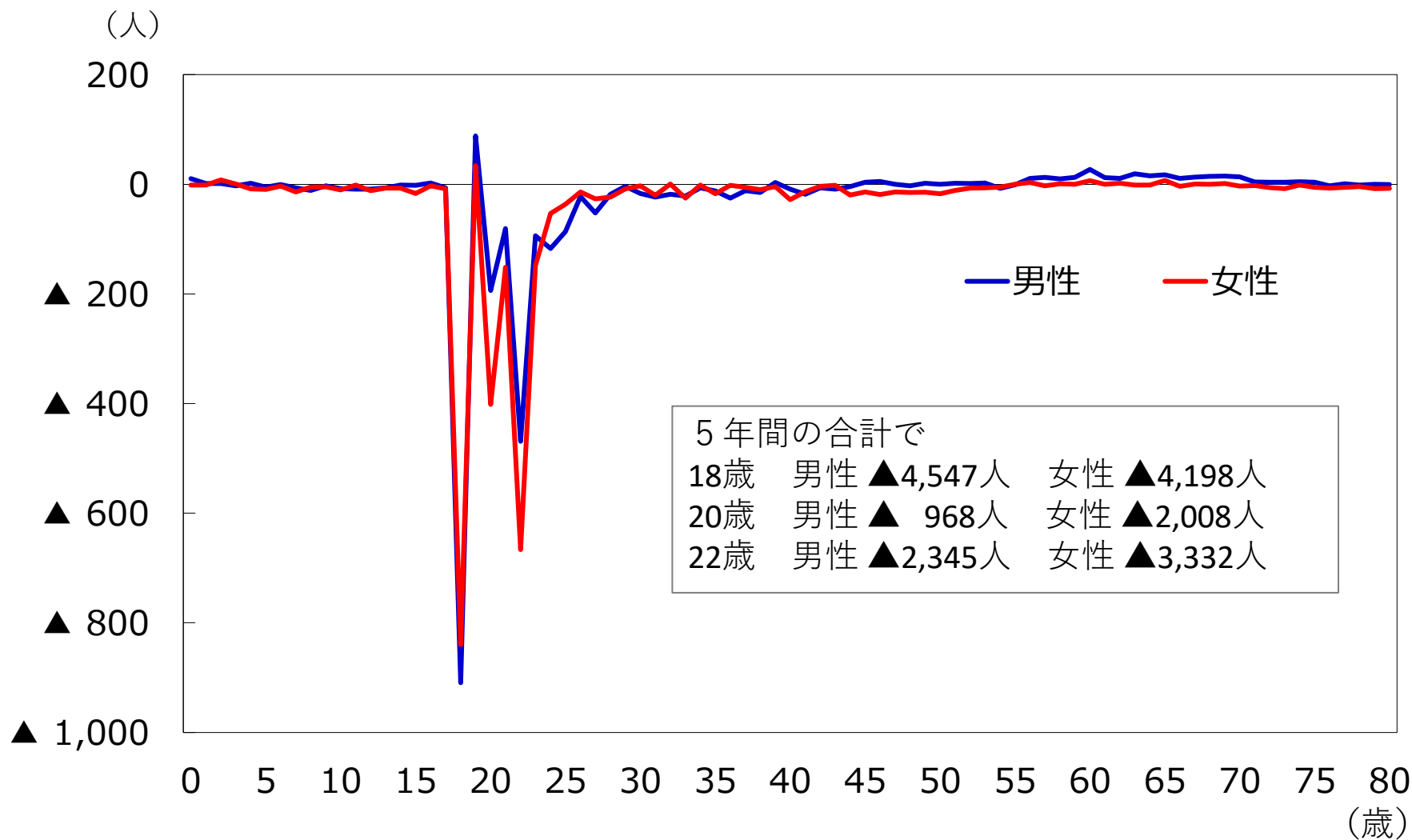


(資料) 青森県「人口移動統計調査」

※各年の数値は前年10月1日～当年9月30日

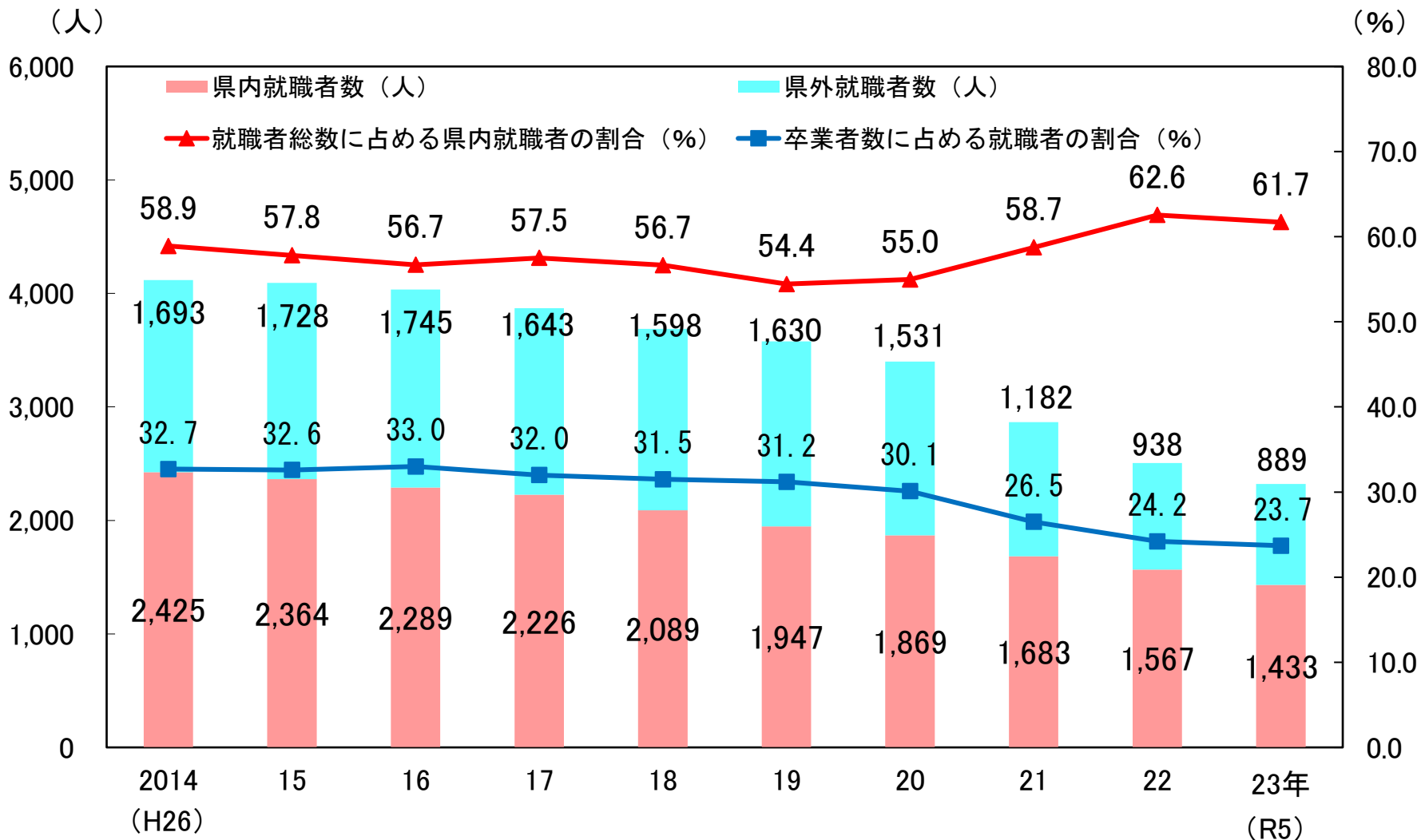
⑧年齢別社会増減数（2017年10月～2022年9月の平均）

◆18歳、20歳、22歳における県外への転出超過が際立っており、20歳から22歳は女性が多い傾向。
15歳から19歳は就学や就職、20歳から24歳では就職が主な理由。



⑨県内高校卒業就職者の県内就職率

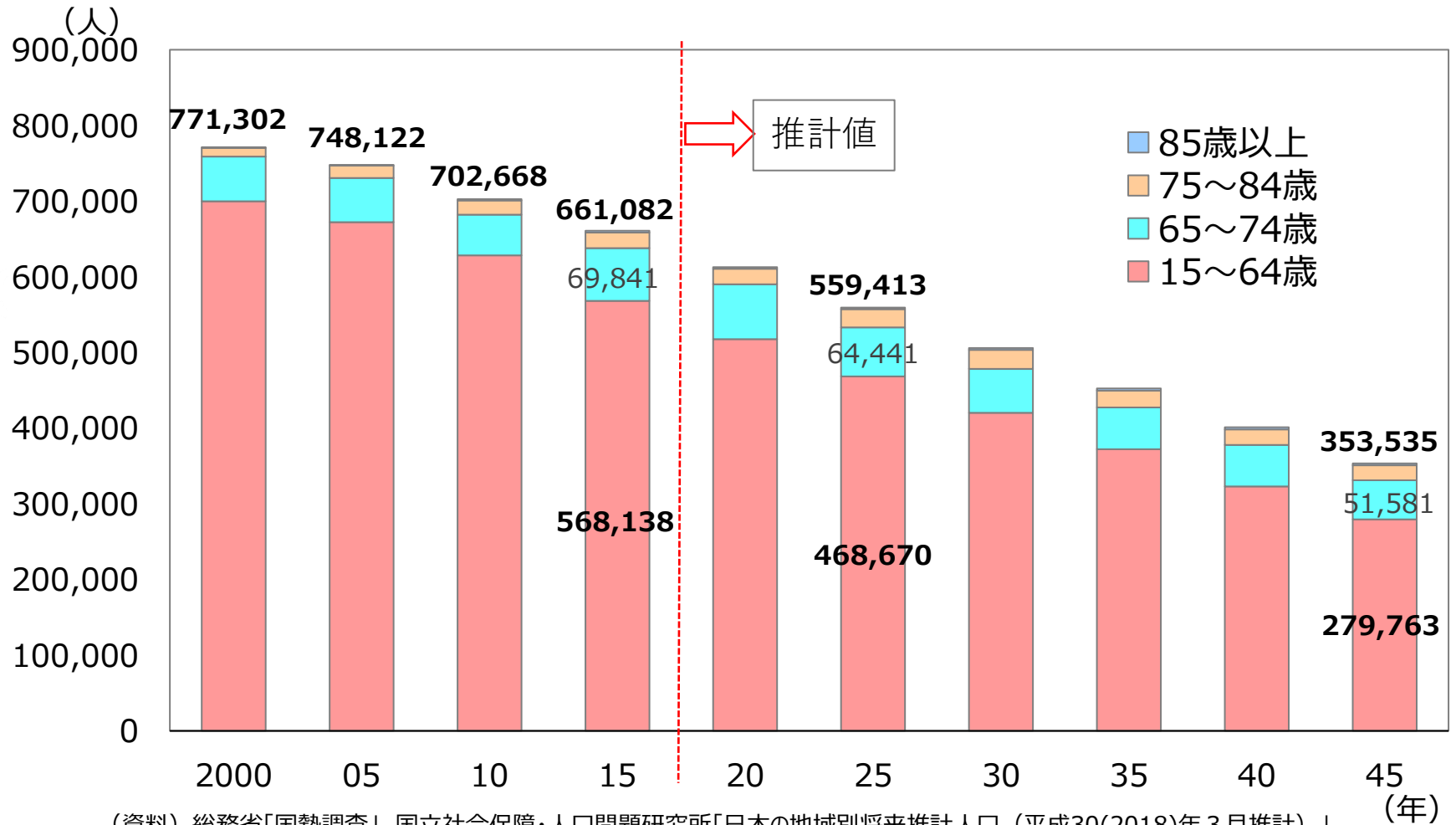
◆県内高校卒業就職者の県内就職率(61.7%)は、近年は増加傾向にあるが、2023年3月卒業は前年より低下。就職者数や就職率(23.7%)は、ともに低下傾向。



※各年3月卒

⑩労働力人口の推移

◆県試算では、2045年の労働力人口は約35万人。2015年比で46.5%減少する見込み。



(資料) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年3月推計)」
 ※推計値は、男女・年齢5歳階級別の労働力率が2015年から変化しないものとして青森県が試算

総人口の将来展望

仮定

- ・ 2040年に合計特殊出生率が2.07
- ・ 2040年に平均寿命が全国平均
- ・ 2045年に社会増減が移動均衡に達する

本県人口は、
2080年以降、**約72万人で安定**

